
テストロッサ家によろしく 2話

取材班 S

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

テストロッサ家によろしく 2話

【Nコード】

N5921Z

【作者名】

取材班 S

【あらすじ】

トニーの年齢はだいたい30代です。

今日は、砲撃の練習をしているフェイトお嬢様とレジスト魔法の練習をしているアリシアお嬢様に休憩にお菓子を用意した。

魔法訓練をして行く内に、どのような魔法が使えるか別れて来た。アリシアお嬢様は、補助や防御に妨害など精密な魔法操作を必要とする魔法に向いており。

フェイトお嬢様は、攻撃や砲撃など、攻撃面に特化した魔法が向いているらしい。

アリシアお嬢様はよくフェイトお嬢様をからかっている様子を考えてみると、何だか不思議な適性の差だと思う。

『アニス、いつもありがとう』

とフェイトお嬢様に口周りにクッキーの欠片を付けながら笑顔で言われた時、私は本当に恵まれた使い魔だと思う。

『アニス、いつもありがとな』

何故だろう、トニーがいつの間にか現れアリシアお嬢様とフェイトお嬢様のお菓子を食べながら、ほざいている。

今日は、良い天気だ。

絶好の洗濯日和だ。『汚い』モノはよく乾くように『高く』吊るさなきゃ：ね？

今日は、プレシア様が直々に魔法訓練を行なうようだ。

私はただ見守るしかできない。

アリシアお嬢様とフェイトお嬢様は、私が作ったデバイス

『バルディッシュ』と『アーク』を持っている。

頑張ってください、お嬢様！

あと、とりあえず私の隣でスナック菓子を食べながら観戦モードのトニーにも魔法訓練を与えましょう。

ふふふ…腕が鳴ります。

トニー？ブラウンがテストタロッサ家から居なくなった。

『いつもの事だから、心配無いわ』

と心配するアリシアお嬢様とフェイトお嬢様に優しく言う。

そうですよ。ゴキブリ並の生命力を持つ男に心配するだけ無駄ですよ。

いつもフラッと出かけて帰ってくるんですから…

だから、心配なんて無いんですよ？

夜中、バルディッシュとアークのメンテナンスが終わり就寝しようとした時だった。

『アニス』

プレシア様に呼び止められた。

『トニーについて話したい事があるの…いいわね』

いつもどこか余裕を見せる笑顔が、今回の笑顔は違った。

トニー？ブラウン

ニートで、ただ飯喰らいのダメ男と思っていた。しかし、彼は時空管理局でS級犯罪者に数えられる重犯罪者なのだ。

そんな危険な男を何故、プレシア様は隠ませたのか。

プレシア様曰く、彼には大恩と言い切れない大恩があるらしい。

プレシア様は以前、とある研究で失敗し爆発事故を起こした。その時、研究所に遊びに来ていたアリシアお嬢様とフェイトお嬢様は大怪我を負い、医師は手の施しようがないと言う程だったらしい。

当時の医学では生命維持がやっとらしく、プレシア様は自分を責めていた、その時1人の男がフラツと現れた。

その男は、手の施しようがないと言われたアリシアお嬢様とフェイトお嬢様の治療を行い見事治療を施したのだ。

治療方法は、余りにも危険な治療だった。

アリシアお嬢様とフェイトお嬢様のリンクーコアをプレシア様のリンクーコアにリンクさせる事により、お互いの魔力供給させる事で完治させた事だった。

これは、生まれながらにして膨大な魔力を持つお嬢様達が出来る事だ。プレシア様にも多大な負担が掛かる。

お嬢様の傷は、プレシア様のリンクにより殆ど治りリンクが必要無くなり解除する時だ。

プレシア様は尋ねた。

何故、そこまでして私達の事を助けてくれたのか、と…

彼は言った。

レディの御要望には、敏感なもんでね。

とキザっぽく言ったそうだ。

彼らしい…

その後、お嬢様達の検診をしながら此方に来ていたそうだ。

つまり、彼がここに居るのはお嬢様達の検診だったのだ。

そして、彼はお嬢様達の検診が必要が無くなり、出ていったらしい。

しかし、そんな名医とも言える彼が、なぜ犯罪者なのか。

彼は医師免許を持っていないらしい。

そして、治療代として相当な金額を踏んだ喰っている違法医師なんだとか…

時空管理局は、医師免許不携帯、無断治療、不当金額請求、医療による人体実験など、の罪でトニーを追っている。

プレシア様も相当な治療代を要求されたいが、全て払い終わったと言った。

プレシア様は、お金でアリシアとフェイトが助かるならいくらでも払うわ

その時、私は『命』の金額を考えた。

命は金額では表せないモノ

しかし、病院ではそれ相応の技術と機材を使用した金額を要求される。

ああ、なんだ。病院も命をお金で救っているのか。

彼にとって『命』とはそれだけの価値があると思っているのだろう。

その話を聞いた、明けた朝、時空管理局の局員が数名現れてトニー？ブラウンの捜査状を出して、強引に家に入ってきた。

しかし、彼は居るはずもなく家を荒らすだけ荒らして帰っていった。空き巣より立ち悪い奴等だ。

その後、風の噂でトニー？ブラウンの話を聴く。

彼はどうかやら、今日も『命』を助けたらしい。

再び彼が帰って来てもいいように準備は欠かせていない。

帰って来たら、納豆を出しながら『お帰りなさい』の一言でも言うてやるつもりだ。

あとがき

これは決して病院が嫌いだとか、批判をしているワケではありません。
ん。
ご了承ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5921z/>

テストロッサ家によろしく 2話

2011年12月19日20時54分発行